

演題は上記のように多様であり、おのおの演者と参加者の間で活発な質疑応答が行なわれた。

(佐藤龍三郎記)

日本家族社会学会大会

第7回日本家族社会学会が、1997年7月24日(木)～7月25日(金)に、早稲田大学国際会議場において開催された。大会では『家族社会学の回顧と展望—1970年代以降—』と題してシンポジウムが開催された。5人の報告者より、以下のようなテーマ・視点からの報告があり、討論者森岡清美氏、落合恵美子氏を加え、家族社会学全体の理論や方法論についての活発な議論がなされた。

1. 「少子・高齢化と世帯・家族の変化」では、少子化と高齢化を中心に、人口学的アプローチからの変化を捉える。
渡辺吉利(国立社会保障・人口問題研究所)
2. 「ジェンダー論」では、フェミニズム論やジェンダー論の視点から、近代化論からの主婦の誕生、共働き・性別役割論、男性論、母性論などの研究のレビュー。
山根万里(愛知教育大学)
3. 「家族問題・家族病理」では、離婚・非行・アルコール依存症・婚外出産などこれまで家族病理とされてきたものをレビューし、新しい家族スタイル論から家族問題を位置づけていく。
清水新二(国立精神保健研究所)
4. 「家族福祉政策」では、これまでの家族福祉に関する研究を統括し、これからの家族政策の課題を盛り込む。
下夷美幸(恵泉女学園大学)
5. 「家族制度・変動論の家族社会学における意味と意義」では、日本での家族制度・変動論の研究レビューとその意味づけについて論じる。
牟田和恵(甲南女子大学)
(新谷由里子記)

経済統計学会第41回全国総会

経済統計学会第41回全国総会は、1997年9月27日(土)、28日(日)の2日間、京都大学を開催校とし、校内の法経2番教室で行われた。学会事務局によると104名の参加があり、6つのセッションがもたれた。その内、4つはシンポジウム形式のものであり(「国民経済計算の諸問題」、「高齢化社会と統計」、「社会統計学の理論と方法」、「日中社会統計学の課題」)、人口に関連する報告は以下のとおりである。

セッション3 高齢化社会と統計

報告者	論 題
渡辺吉利(国立社会保障・人口問題研究所)	「配偶関係と世帯の人口構成」
廣嶋清志(島根大学)	「高齢者に関する日本の統計の現状と問題点」
宮崎憲治(京都大学)	「一般均衡アプローチによる社会保障と人口問題の計量分析」
予定討論者	山本千鶴子(国立社会保障・人口問題研究所) 福島利夫(専修大学)
座長	伊藤陽一(法政大学)

(山本千鶴子記)